

山 口 県

学力調査活用アクションプラン

山口県教育委員会

## 〈 目 次 〉

第Ⅰ章	山口県の状況	.....	P 2
第Ⅱ章	山口県の目標と取組課題	.....	P 5
第Ⅲ章	課題に即した山口県の具体的な改善策	.....	P 6
第Ⅳ章	学力調査活用アクションプランの推進	.....	P 9

# 第 I 章 山口県の現状

平成19年度から実施されている全国学力・学習状況調査の結果、山口県は、平均正答率を全国と比較すると、中学校はやや上回っているが、小学校は下回っているという状況である。平成20年度の調査では学力向上に向けて「基礎基本の定着や思考力・判断力・表現力等の育成」が急務であることが明らかになり、学校の組織的な授業改善の取組や家庭との連携に取り組んできた。今年度の結果は、以下のとおりである。

## 1 平成21年度の全国学力・学習状況調査の結果

### (1) 教科の全体的な結果

平均正答率を山口県と全国とで比べると、小・中学校ともに、調査を実施した過去3年間で最も高い結果である。中学校では4分野全てにおいて全国平均を上回っており、小学校では下回ってはいるものの、特に、算数の「知識」に関する問題の平均正答率が全国平均並みになるなど、全国平均に近づいている。

「知識」に関する問題に比べて、「活用」に関する問題の平均正答率が低く、平成19・20年度の結果と同じ傾向がみられたが、中学校国語では、「活用」に関する問題の平均正答率が大きく上昇するなど改善の兆しがみられる。

	問題数 (問)	平均正答率 (%)				
		山口県	全 国	全国との比較		
				21年度	20年度	19年度
小学校	60	64.8	66.0	-1.2	-2.9	-1.4
中学校	92	69.6	68.3	+1.3	+0.4	+1.3

#### ① 「知識」に関する問題

		平均正答数 (問)		平均正答率 (%)				
		山口県	全 国	山口県	全 国	全国との比較		
						21年度	20年度	19年度
小学校	国語A	12.4/18	12.6/18	68.6	69.9	-1.3	-2.0	-1.1
	算数A	14.1/18	14.2/18	78.6	78.7	-0.1	-3.0	-1.6
中学校	国語A	25.7/33	25.4/33	78.0	77.0	+1.0	+0.6	+1.1
	数学A	21.1/33	20.7/33	64.0	62.7	+1.3	+0.2	+1.4

#### ② 「活用」に関する問題

		平均正答数 (問)		平均正答率 (%)				
		山口県	全 国	山口県	全 国	全国との比較		
						21年度	20年度	19年度
小学校	国語B	5.0/10	5.1/10	49.6	50.5	-0.9	-3.0	-2.0
	算数B	7.4/14	7.7/14	52.8	54.8	-2.0	-2.9	-1.5
中学校	国語B	8.4/11	8.2/11	76.3	74.5	+1.8	-0.1	+1.0
	数学B	8.8/15	8.5/15	58.6	56.9	+1.7	+0.8	+1.8

## (2) 各教科ごとの結果

### ① 小学校国語

国語Aについては、平均正答率が68.6%であり、知識・技能の定着に一部課題がみられる。国語Bについては、平均正答率が49.6%であり、知識・技能を活用する力に課題がある。

#### 【相当数の児童ができている点】

- (A) 第5学年までに学習した漢字を読むこと。
- (A) 文章の内容に合わせて、小見出しを書くこと。

#### 【課題のある点】

- (A) ローマ字の読み書き、接続語を使っての文の分割、毛筆作品の校正をすること。
- (B) 目的や意図に応じて考えをまとめて書くこと。

### ② 小学校算数

算数Aについては、平均正答率が78.6%であり、知識・技能の定着に一部課題がみられる。算数Bについては、平均正答率が52.8%であり、知識・技能を活用する力に課題がある。

#### 【相当数の児童ができている点】

- (A) 整数、小数、分数の計算をすること。
- (A) 平行四辺形などの性質を理解していること。

#### 【課題のある点】

- (A) 百分率を求めること。
- (B) 情報を整理し、自分の考えの根拠を、言葉や式などを使って説明すること。

### ③ 中学校国語

国語Aについては、平均正答率が78.0%であり、知識・技能の定着に一部課題がみられる。国語Bについては、平均正答率が76.3%であり、知識・技能を活用する力に一部課題がみられる。

#### 【相当数の生徒ができている点】

- (A) 本文の展開に即して内容をとらえること。
- (B) 語句に注意し、その効果的な使い方に気付くこと。

#### 【課題のある点】

- (A) 短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむこと。
- (B) 資料に表れている工夫を自分の表現に役立てて書くこと。

④ 中学校数学

数学Aについては、平均正答率が64.0%であり、知識・技能の定着に一部課題がみられる。数学Bについては、平均正答率が58.6%であり、知識・技能を活用する力に課題がある。

【相当数の生徒ができている点】

- (A) 正の数と負の数の計算や文字式の計算をすること。
- (A) 展開図で表されている空間図形の面の位置関係をとらえること。

【課題のある点】

- (A) 証明の意義について理解すること。
- (B) 事象を的確にとらえ、数学的な表現を用いて説明すること。

(3) 生活習慣や学習環境等に関する結果

① 児童生徒に対する調査

【望ましい状況】

- ・ 朝食を毎日食べること、起床・就寝時刻は、これまでと同様に望ましい傾向。
- ・ いじめを許さない心は、これまでと同様に望ましい傾向。きまりを守る態度、人の役に立ちたいという思いは、年度ごとに改善しており、全国と比べても望ましい状況。
- ・ 近所の人へのあいさつ、地域行事への参加は、昨年度より改善し、全国と比べても望ましい状況。

【課題とみられる状況】

- ・ 感想文や説明文を書くことを難しいと思う割合が、全国と比べて高い状況。
- ・ 学校の授業時間以外での学習時間（小学校）、自分で計画を立てて取り組む学習は、昨年度より改善傾向にあるものの、間違えた問題の復習は、全国と比べると低い状況。
- ・ テレビやビデオ・DVDの視聴時間は、全国と同様に長い状況。

② 学校に対する調査

【望ましい状況】

- ・ 児童生徒の発言や活動時間を確保して授業を進める学校、国語の指導として書く習慣を身に付ける授業を行った学校の割合は、年度ごとに改善傾向にあり、全国と比べても高い状況。
- ・ 昨年度の調査結果を学校全体で活用した学校、保護者や地域の人たちと共有した学校の割合は、全国と比べると高い状況。
- ・ 授業参観の年間実施回数、PTAや地域の方のボランティアとしての諸活動への参加、学校や地域であいさつをするよう指導している学校の割合は、全国と比べ高い状況。職場見学や職場体験活動を行っている小学校の割合は、年度ごとに高くなっており、全国と比べても高い状況。

### 【課題とみられる状況】

- ・ 算数・数学の習熟の遅いグループに対する少人数指導を行った学校の割合は、全国と比べると低い状況。
- ・ 授業研究を伴う校内研修の実施回数は、昨年度より改善しているものの、全国と比べると低い傾向。
- ・ 放課後を活用した補充学習を実施した学校は、前年度に比べ大きく改善しているものの、ボランティア等による授業サポートを行っている学校と同様に、全国と比べると低い状況。

したがって、こうした状況を踏まえ、山口県の課題解決に向けた取組を一層推進するため本事業を推進することとし、次章において重点的に取り組む課題を明確に示した。

## 第Ⅱ章 山口県の目標と取組課題

山口県では、「住み良さ日本一元気づくり加速化プラン」において児童生徒一人一人の「確かな学力」の定着・向上を図るため、学校の授業改善等の取組を推進している。学力向上に係る元気指標として、全国学力・学習状況調査において、平成24年度には小・中学校の平均正答率が全国平均を上回り、更に向上することを目標として定めている。

こうした中、本事業において学力向上対策の推進に取り組み、課題解決に向けた授業改善、指導体制の工夫を進めるとともに、家庭との連携を深め、学校と家庭が一体となって学力向上に取り組むため、以下の2つを本事業の重点取組課題とする。

### 【重点取組課題】

#### ◆ 校内研修の活性化

- ・ 教員の指導力向上のための実践的な校内研修の充実を図る。
- ・ 学力の定着を確認しながら学習を進める等、学習指導システム(別紙資料)に基づいた授業改善を図る。

#### ◆ 家庭との連携

- ・ 家庭や地域と協力し、学習習慣を身に付ける。
- ・ 家庭への働きかけを工夫し、家庭と一体となった取組を推進する。
- ・ 児童生徒の生活習慣の改善を図る。

## 第三章 課題に即した山口県の具体的な改善策

### 1 基本方針

山口県及び各推進地域、学校が連携を図り、課題である「校内研修の活性化」、  
「家庭との連携」の実践的な研究に取り組み児童生徒の学力向上に資する。

また、「基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力を高める授業改善の推進」  
を共通に取り組む内容とし、推進地域において重点的な取組を行う事項について  
は、次のとおりとする。

- 思考力・判断力・表現力の育成を図る教材活用と指導方法の工夫・改善
- 基礎基本の定着を図るための個に応じた指導の充実
- 学力の定着向上に向けた「学習指導システム」の確立
- 教員の指導力向上を図るための、授業研究を伴う校内研修の充実

なお、アクションプラン推進協議会、県教育委員会、推進地域教育委員会、  
推進校の具体的な取組事項については、事項以下に示す。

### 2 具体的な改善策

#### (1) アクションプラン推進協議会

山口県教育委員会、推進地域教育委員会（下関市教育委員会、美祢市教育  
委員会、防府市教育委員会、宇部市教育委員会）、推進校（小学校2校、中学  
校3校）、大学関係者、PTA 関係者などを構成員としてアクションプラン推進  
協議会を開催し、アクションプランの策定、実践研究の統括及び普及を行う。

#### (2) 教育委員会

##### ① 山口県教育委員会

- ・ 授業で使う教材等（教材作成委員会作成）を、Web により各学校に提  
供すること、さらに評価問題等の結果入力により、学習状況を把握でき  
る Web 上の評価システムを構築する。
- ・ 授業改善を推進するための推進校の校内研修会へ、指導主事を派遣す  
る。
- ・ 学力向上に向けて、推進地域・推進校の効果的な取組について県内の  
研修会や Web 等を通じて普及する。
- ・ 学力向上に向けた「校内研修の活性化」、「家庭との連携」の取組を県  
内の全・小中学校に紹介するリーフレットを作成し、普及を図る。

## ② 市教育委員会

- ・ 基礎・基本の定着や思考力・判断力・表現力等を図るために、講師による授業提供を行う等学力向上に向けた実践的な授業研究会を開催する。
- ・ 授業改善を推進するための推進校へ指導・助言を行う。
- ・ 推進校の成果について域内の学校への普及を図るため市主催の研修会を開催する。
- ・ 学力の状況を把握するため、市独自の学力調査等を実施する。
- ・ 学習意欲を喚起し、基礎的基本的な学習内容を習得させるための学習プリントを提供する。

## (3) アクションプラン推進校

### ① 全体的な取組

- ・ 全国学力・学習状況調査実施後、直ちに解答状況を把握して学校の取組方針を決定し、保護者とも情報を共有する。
- ・ 全国学力・学習状況調査の質問紙や独自の学力調査、アンケート等の評価指標となるものを取組の前後に実施し、成果の検証を行う。
- ・ 県が示した「学習指導システム」に基づく授業改善の取組を推進する。
- ・ 県で開発した思考力・判断力・表現力等を高めるための教材や全国学力学習状況調査の問題を授業で活用したり、Web評価システムを使った指導方法の実践研究を行う。
- ・ 基礎基本の定着を図るために、補充学習等を実施する。

### ② 校内研修の活性化に向けて

- ・ 教員の指導力向上のために、模擬授業や授業研究等を伴う授業研究会等を開催するなど、研修機会の拡充と校内研修方法を工夫（他校教員参加の研修会3回以上等）する。
- ・ 中学校における各教科共通の授業評価項目等を開発する。

### ③ 家庭との連携に向けて

- ・ 家庭学習の定着、児童生徒の主体的な学びに向けた、家庭への効果的な働きかけ等について実践的な研究を行う。
- ・ 県や市が提供する学習プリント等を家庭学習で活用する。
- ・ 家庭学習の手引き等を活用した学習の質の向上を図る。
- ・ 学校での「もの構え、心構え」の指導を生かした家庭での学習習慣を確立する。
- ・ 学校だより等を工夫するとともに、学校と家庭の情報交換の場を設定し、家庭学習の意義について理解を深める。
- ・ 保護者への家庭学習取組状況アンケート（学期末年3回）を実施する。
- ・ P T A 役員、学校評議員等で学校の取組、家庭での取組の意見交換会を実施する。

### 3 評価に関する事項（事業終了時点での評価方法、評価指標）

#### （1）思考力・判断力・表現力等の育成

【指標 1】 県が独自に作成した評価問題の平成21年度の正答率が、平成20年度の結果を上回る。

【把握方法】 平成20年度の小5、中2を対象に実施した評価問題の正答率と平成21年度末に小6中3を対象に実施する評価問題の結果を比較する。

#### （2）基礎基本の定着

【指標 2】 学力調査（CRT等）を実施し、基礎的基本的内容の定着度が向上する。

【把握方法】 同一学年において、年度当初と年度末に学力調査（CRT等）を実施し、正答率等を全国を基準として比較する。

#### （3）学習意欲の向上

【指標 3】 児童生徒質問紙の「国語(算数・数学)の勉強は好き」「国語(算数・数学)の授業の内容がよくわかる」等の児童生徒の割合が増加する。

【把握方法】 同一学年において年度当初に行った全国調査の児童生徒質問紙を年度末に再度行い、変容を比較する。

【指標 4】 授業が「分かりやすい」「おもしろい」とする児童生徒の割合が増加する。

【把握方法】 年間を通じて児童生徒による授業評価を実施し、その変容を比較する。

#### （4）家庭での学習習慣の定着

【指標 5】 家庭における学習習慣の定着に関し、平成22年3月までに、授業以外で1時間以上学習する児童生徒の割合が増加する。

【把握方法】 児童生徒に対し、学学習状況調査の質問紙と同様の家庭学習に関するアンケートを年度末に再度実施し、変容を比較する。

【指標 6】 保護者の学力向上に向けた家庭学習の取組への理解が深まる。

【把握方法】 保護者に対するアンケートを実施し、変容を比較する。

## 第Ⅳ章 学力調査活用アクションプランの推進

### 1 推進地域・推進校

#### (1) 校内研修の活性化

##### ① 下関市〔下関市立桜山小学校、下関市立安岡中学校〕

小学校においては、校内研修の質を高めるため、学力の定着を確認しながら学習を進める等、「学習指導システム」に基づいた授業改善を図る。

中学校においては、実践的な校内研修（模擬授業、事例研究）の機会を増やし、全教職員の一体となった取組を進め、校内研修の充実を図る。

##### ② 美祢市〔美祢市立秋芳南中学校〕

学力向上をめざした校内研修の質を高めるため、「学習指導システム」に基づいた授業改善を図るとともに、その際に活用する各教科共通の授業評価項目を開発するなど、授業改善のための多様な検証に基づく研究を行う。

#### (2) 家庭との連携

##### ① 防府市〔防府市立中関小学校〕

児童生徒の家庭での学習意欲向上のため、家庭への働きかけの方法、家庭学習の内容を研究するとともに、生活習慣の改善のため、学校と家庭のつながりを深める手立てを研究する。

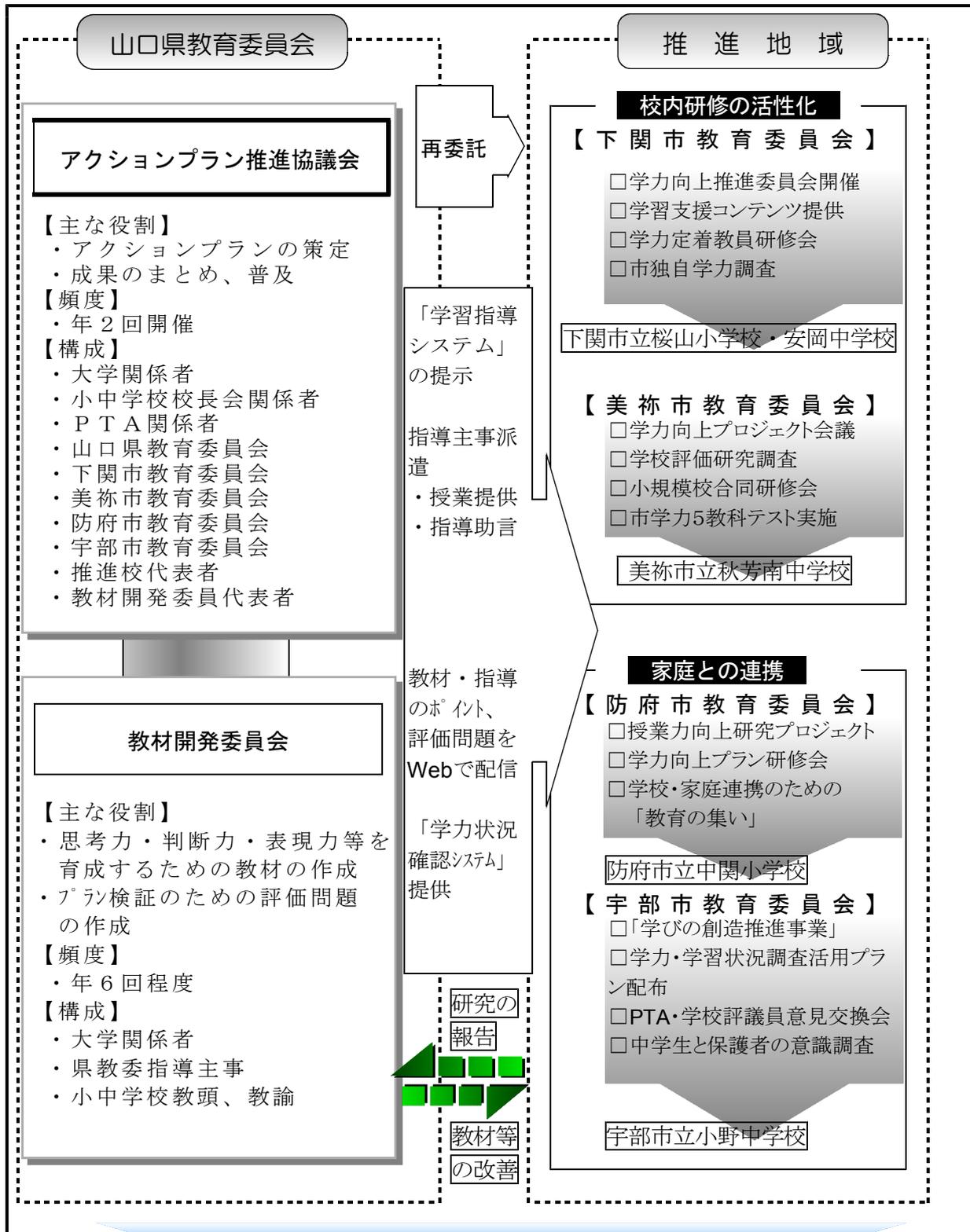
##### ② 宇部市〔宇部市立小野中学校〕

家庭学習の定着に向けた家庭への働きかけの方法と学習習慣を身につける手立てを工夫するとともに、活用する力をつけるため、家庭学習の内容を工夫する。

### 2 推進スケジュール

時期	計 画 事 項	備 考
6月	学力調査活用アクションプラン企画	
7月	教材開発委員会①	教材等の作成
8月	教材開発委員会②③	教材等の作成
9月	市教委等による研修会等の開催	評価問題作成
	第1回アクションプラン推進協議会	アクションプラン策定 教材追加配信
10月	教材開発委員会④	実践的研究 評価問題配信
11月	教材開発委員会⑤	
12月	教材開発委員会⑥	評価問題実施 教材追加配信
1月		質問紙・アンケート等実施
2月	第2回アクションプラン推進協議会・成果発表会	評価問題実施 アクションプラン成果発表
3月	成果のまとめ、普及(Web掲載・リーフレット配布)	

### 3 推進体制



成果の普及（成果発表会、リーフレット配布、成果報告Web掲載等）

県内の小・中学校

家庭・地域

## 4 成果の普及

### (1) 期待される成果

- ① 「校内研修の活性化」「家庭との連携」の研究成果を普及することにより、バランスのとれた学力が育まれ、学力が向上する。
- ② 推進校の成果を踏まえた実践を推進し、各学校において校内研修の充実が図られ、教員の指導力向上につながり、児童生徒にとって授業が分かりやすく、考える楽しさを味わえるものになる。
- ③ 積極的な家庭への働きかけや児童生徒へ適切な課題を与えることにより、家庭での学習習慣が定着した児童生徒が増加する。
- ④ 保護者とのつながりを深める取組を通して、保護者の学力向上に向けた取組への理解が深まり、学校と家庭がより一体となって学力向上に取り組む。

### (2) 平成21年度成果の普及

- ① 教材開発委員会で作成した教材・評価問題を授業評価等に生かし、推進校の実践を踏まえて検証し、改善を図って、県内全ての学校で活用する。
- ② 推進校の特色ある取組については、それぞれの地域で研修会等を通じて紹介し、市教育委員会の指導のもと、実践を普及する。さらに、県全体への普及のため、本事業の取組を事前に周知するとともに、実践研究の成果を発表会で紹介する。
- ③ 学力向上については、学校のみならず家庭・地域と一体となった取組が重要であることから、推進校の具体的な成果等をリーフレットにまとめ、学校へ配布するとともに、Web掲載等により、広く一般の保護者、地域の方々への情報提供に努める。

成果発表会（やまぐち教育セミナー）

期日：平成22年 2月 5日（金）

会場：山口県セミナーパーク

### (3) 平成22年度以降の取組と成果の普及

- 平成22年度以降も、リーフレットを活用した普及や学校訪問での紹介等で、学校への教材や情報の提供、きめ細かな指導の充実が図り、総合的な学力向上対策を推進する。
- 今年度の取組をスタートとして、推進校はもとより県内の小中学校において取組を継続し山口県の児童生徒の学力の向上に資する。

